

oVice を使用した講演会の実施 ～リアルとバーチャルのいいところ取りを 目指して～

日本機械学会 第 32 回バイオフロンティア講演会

実行委員長 中村 匡徳

幹事 杉田 修啓

幹事 氏原 嘉洋

開催日 2022 年 1 月 12 日～13 日

講演会名 日本機械学会 第 32 回バイオエンジニアリ
ング講演会

参加人数 約 260 人

講演数 160 件

会場 oVice バーチャル講演会場 (5 階建てビル)
・レセプションホール (500 人)
・A, B, C, D 会場 (各 200 人)

oVice を講演会のプラットフォームとした経緯

日本機械学会 第 32 回バイオエンジニアリング講演会
は、バーチャル空間の oVice (オヴィス) を活用して全面
オンラインで開催致しました。本講演会は、バイオエンジ
ニアリングに関わる研究を行っている若手研究者および
大学院生を中心として、さらにベテランの研究者が一堂に
会し、独自の発想に基づいたアイデアなども気軽に提示
し合う柔軟で自由闊達な雰囲気 of 講演会を目指していま
す。従来の対面での開催が困難な中、講演会の趣旨を実現
するために、実際に対面で参加しているような臨場感や交
流を創り出したいとの強い思いがありました。ヒントにな
ったのは、先に開催された日本機械学会 第 33 回バイオ
エンジニアリング講演会です。ポスター発表と懇親会が
oVice を利用したバーチャル空間の会場で開催され、これ
までのビデオ会議ツールにはない臨場感と交流、未来を感
じさせるワクワク感がありました。

開催までの準備

学会 3 ヶ月前から準備を始めました。その際、oVice 株
式会社のスタッフの皆様、京都大学の牧 功一郎先生、慶
應義塾大学の須藤 亮先生に多大にご協力いただきました。
懇親会やポスター発表については、開催事例や実体験があ
ったため、イメージは直ぐにつかめました。一方、一般の
口頭発表での oVice の使用については、直接的に参考にな
る情報が少なく、多少不安がありました。まずは oVice の
操作に慣れるため、開催までの研究室の研究会 (全 8 回)
を全て oVice で行いました。操作方法の躓きやすい点を中
心に、会場スタッフ用、聴講者用、講演者用、座長用のマ
ニュアルとしてまとめました。当初の想定 of 2 倍 of 講演数
が集まったため、受付および特別イベント会場のレセプシ
ョンホール、一般講演会場の A, B, C, D 会場の計 5 階建て
となるバーチャル講演会会場を用意しました。レセプシ
ョンホールにおいては、チュートリアルスペース (oVice 提
供レイアウトを講演会用に一部変更) や講演者の操作確認
スペースを設置したりしました。一般講演会場においては、
参加者の名前がよく見えるように座席の形や色を工夫し

たり、臨場感 of 演出と座長の負担軽減のために質問者席を
用意したりしました (図 1)。プレオープンとして学会 5 日
前から会場を公開し、前日には座長と発表者向けの練習時
間を設けました。

講演会当日

当初心配していた大きな混乱もなく、順調に進みました。
出藍会 (若手による交流を目的としたイベント) 企画では、
直前にレイアウトの変更希望がありました。oVice のレ
イアウトは柔軟にカスタマイズ可能なため、希望通りに対
応することが出来ました。このイベントでは、座談会によ
うに複数人で同時に話す企画であったため、特に oVice の
使いやすさが好評でした (図 2)。一般講演も円滑に進行
しましたが、質問者席に参加者が突然出現するといったこ
ともありました。これは、各会場に対応した階数 (図 1 左
端中央の数字) をクリックすると、会場の左上に出現する
設定であるにもかかわらず、その付近に質問者席を配置し
たために起こった現象です。別の入口を正規ルートとして
用意していたのですが、こちらの想定通りには動いていた
だけないこともありました。全体としては、講演者や座長
の方からも好意的な意見が多く、むしろ対面よりも良いの
ではないかという有難い意見も頂戴しました。

懇親会では、イベントにあわせて背景図を随時変更する
ことで、参加者に会場移動を強いることなく、表彰式 (図
3)、フリートーク、O×大会 (図 4) 等を行いました。表
彰式 (図 3) では、拍手やドラムロールなどのリアクシ
ョンを活用することで、会場のボルテージは対面式さなが
らでした。フリートークでは初対面同士でも話が弾むよう
に、「研究つらい人」、「博士課程進学者」等のトピック毎
のテーブルを用意しました。O×大会 (図 4) では全員の動
きが俯瞰的に見えることで、司会者からも茶々を入れやす
くなり、オンラインでも盛り上がることができました。こ
のように、oVice を用いることで一般的なビデオ会議
ツールでは難しい演出を行い、交流を促進しました。最後
は参加者全員の万歳で締めくくり、盛会裏に終わりました。

講演会を終えて

バーチャルの利便性とリアル of 臨場感 of いいところ取
りをした講演会 of 新しい形を提案できたのではないかと
思います。講演会 of 実施に際し、oVice 株式会社には、oVice
 of 無償提供など、多大なご協力をいただきました。最後
になりましたが、ここに記して御礼申し上げます。



図 1 一般講演会場でのデモ。座長席や質問者席、次以降
 of 講演者席などを設置した。



図2 レセプションホールでの出藍会イベント. 会場中央の講師の先生方に向けて拍手をしている様子.



図3 レセプションホールでの表彰式の様子.



図4 レセプションホールでの○×大会の様子.